

がん検診の申し込みが始まります

がん検診の申込方法は、①往復はがき、②健康福祉課窓口の2つの方法があります。申込方法を確認の上、期日を守って申し込んでください。

平成17年度 検診日程表 (春)

検診名	期日	会場	対象	内容	負担金
胃がん検診 (午前のみ)	4月13日(水)	保健センター	昭和40年3月31日以前生まれの方	胃バリウム検査	1,000円
	4月14日(木)	農村環境改善センターいずみの里			
	4月16日(土)	保健センター			
乳がん検診	4月22日(金) 午前	保健センター	昭和50年3月31日以前生まれの女性	①超音波エコー検査：30～39歳、50～59歳	①800円 ②700円
	4月22日(金) 午後			②マンモグラフィ検査：40～49歳、60歳以上	
	4月23日(土) 午前				
	5月18日(水) 午前・午後				
子宮がん検診		乳がん検診と同時開催	昭和60年3月31日以前生まれの女性	子宮頸部細胞検査	700円

※秋に実施予定の検診については、3月末配布予定の健康カレンダーをご覧ください

◆申込方法

①往復はがきの場合
(例)のはがきの書き方を参考に記入してください。
《注意点》
1 検診につき、往復はがき1枚の申し込みとなります。ただし、乳がん検診と子宮がん検診を同時日程で受診し

たい場合は、1枚で2検診を申し込みすることができます。必ず、乳がん検診・子宮がん検診両方希望と明記してください。
②健康福祉課窓口の場合
窓口で検診申込書を記入します。希望の検診数の官製はがきを持参してください。後日、はがきで検診の日程をお知らせしますので、はがきには何も記入しないでください。
▼申込締切日 3月31日(木)必着
申・健康福祉課健康指導係
☎728321

(例)

住所 大網白里町大網100-2
大網白里町役場 健康福祉課 健康指導係 行

〈記入しない〉

(検診を申し込みされる方の)

- 住所
- 氏名
- 生年月日 (年齢)
- 電話番号
- 希望する検診名 (例)胃がん検診

※希望の日程がありましたら、ご記入ください。(例)○月○日
申込多数の場合は、希望の日程に添えない場合もありますのでご了承ください。

〈記入しない〉

在宅介護支援センターだより ② 「詐欺にご用心」

高齢者というと、介護が必要な方や社会的弱者と思われるがちですが、現在、高齢者と言われている方は心身ともに自立している方が多く、約8割は元気に暮らしています。一方で、いかに元気に見える高齢者でも、個人差があるとはいえ、加齢に伴う歩行能力、視力や聴力等が低下する、病気がちになるなど心身ともに機能が衰えていくことは否めません。

このような状態になると、一番心配されるのが判断能力の低下による売買契約等ではないでしょうか。

全国消費生活情報ネットワーク・システムに寄せられている消費生活相談情報をもと、60歳以上の方が契約当事者となっている消費生活相談は、全体の17%を占めています。特に70歳以上の方では、家庭への訪問販売に関する相談が数多く見られます。

最近のニュースを見ても振り込め詐欺(おれおれ詐欺)、架空請求、クレジットカードのスキミング(個人データの読み取り)等の被害が増えています。

また、突然の訪問で白アリ駆除、床下・換気扇・屋根工事

給水管清掃等、無料で点検しますと言って高額な改修工事費を迫る業者もいます。突然の訪問や電話による強引なセールスで商品を購入してしまつたが、返品したい...。そのようなときに備え、覚えておくことも役に立つ制度があります。

それが「クーリング・オフ」です。「クーリング・オフ」とは、訪問販売など特定の取引について、消費者に一定期間の考え直す機会を与え、期間内であれば契約を無条件に解除できる制度です。

商品の購入等に際し、契約をするときは、くれぐれも慎重な対応を心掛けるようにしましょう。

お忘れなく！ 今月は使用済み乾電池の収集月です

今月は、使用済み乾電池の収集月です。収集日の午前8時までに使用済み乾電池の袋に入れて集積所に出してください(6面のごみ収集日程表参照)。

使用済み乾電池用の袋は、区(自治会)を通じてご家庭に配布しましたが、区(自治会)に加入されていないご家庭は、生活環境課、中部コミュニティセンター、白里出張所に用意してありますので利用ください。

また、指定日以外に出される場合は、役場、保健文化センター、中央公民館、中部コミュニティセンター、白里出張所、各小・中学校(生徒対象)に回収ボックスを設置してありますので、利用ください。

なお、ボタン型乾電池、充電式ニカド電池やバッテリーは販売店等に引き取ってもらってください。

☎生活環境課衛生係
☎(70)0386

在宅介護支援センター

は、高齢者の方々が住み慣れた地域でより良く生活できるようにさまざまな相談に応じたいです。まずは、お気軽にご相談ください(年中無休・24時間対応)。

☎在宅介護支援センター
おおみ緑の里 ☎(73)5146
杜の街 ☎(70)1666

育つ 育てる

昨年12月、私の高校時代の同窓会がありました。私はそれには出席できなかったのですが、同窓会の数日後、分厚い封筒が送られてきました。出席者の写真が何枚かかき、不思議に思いながら開けてみると、原稿用紙3枚にわたって書かれた、私の作文でした。高校2年のときに書いたもので、題は「先生へ」となっていました。もちろん、そんな作文を書いたことなど全く記憶にありません。青いインクで書かれた文字からは、若い心細さがあふれてきて、高校時代の友達や校舎の風景、学校の行き帰り...などの思い出が脳裏をよぎりました。

この同窓会は、古希を迎えた担任教師と教子のわたしたちの還暦を祝おうと計画されたものでした。先生は教員としての還暦の日まで、その作文を取っておいてくれたのでした。

作文を読みながら、私にもこんなに若々しい時代があったのだと、しみじみと感慨に浸りました。また、作文と一緒に、先生の随筆のようなものが同封されていました。「還暦を迎えた昔の少女たちへ」という題でした。その中には、先生が還暦を迎えた日のことが書かれていました。「ちょっととした言葉や表現が、生きていく上で予想外の勇氣や意欲をかき立ててくれることがある」という書き出しで始まり、「還暦は一つの節目には違いないが、そのことでその後の何が特別に変わる訳ではない。」

何だか、人生の少し先を歩いている先生が「歳をとることとは、そんなに寂しいことではないよ。当たり前のことなんだよ。安心しなさい」とやさしく教えてくれているような気がしました。

5年前の同窓会のときにも、先生は随筆を書いていました。同じように巣立っていった教え子たちに、月日は同じように幸福を与えてはくれない、車いすで夫に送られて出席した人、一夜の病気で夫を失った人、嫁姑の確執がようやく一区切りついた矢先に息子を事故で失った人...と境遇はまちまちでした。このような教え子たちを目的にしたりして、その時の題は「苦勞した分だけ、すてきなあなたに」でした。そして、文章は「涙とともにはパンを食った者でない」といって、人生の味はわからないという、ゲーテの言葉の引用で始まり「苦勞した分だけ、人間は深みを増します。そして、何より人の苦しみや悲しみを理解できる魅力的な人になれるのです」と、わたしたち、それぞれ境遇を励ますものでした。

最後にもう一言、先生は「私は老けて生まれ、年々若くなっていく。今は60歳の若さだ」といって、Desmond Morrisの言葉を掲げていました。昔の担任は、今、文字通り人生の師となっていました。

☎教育委員会
エスポワール指導員
☎(70)0372

心を引きつける見事な作品

▲心を引きつける見事な作品

会員それぞれが、千葉県展や個展などで活躍する実力者で構成される町美術会。その美術会員45人が自信作を出品した「第10回ふるさと美術展」が、1月28日から9日間、保健文化センターで開催されました。

穏やかな曲が流れる会場には、日本画や油絵、水彩画、書道、彫刻、工芸など、多彩な作品50点が展示。訪れた人を魅了しました。

また、入り口には、開催10回目を記念して発刊された会員の作品集が置かれるとともに、会員による作品の説明なども行われました。

作品を見終えた女性は、「どの作品も素晴らしく、個性が強く感じられ、目や心を引きつけるものでした。また、会員の方の話も伺えたので、親しみやすく作品に触れることができました」と語っていました。

心を引きつける多彩な作品

町制施行50周年記念第10回ふるさと美術展

心を引きつける見事な作品

▲ごみを拾いながらこまめに分別



「君たちが巣立ったときに、大網白里町はきれいな町だねと言われる、きれいな町だねと言えるように」と学年主任の宮崎先生の話から始まった、1月21日の大網中学校生徒によるごみ拾い。軍手に青色のジャージ姿の1年生283人が、勤労・奉仕体験として行いました。

クラスごとに割り振られた大網駅や大網幼稚園、町営住宅などの学校周辺8ルートに

生徒たちは道路だけでなく、水路の土手に投げ込まれたごみも集め、ぬかるみにはまり、靴が泥だらけになる生徒も。駅に向かう人からは「苦勞さま」「精が出ますね」といった声が掛けられる場面も見られました。

拾ったごみは学校の校庭で、再度分別。どの生徒も家庭で手伝っているのか、手慣れたように作業を行い、約1時間半で、2トンダンブが一杯となるごみを引き取りにきた清掃職員に引き継ぎました。

ごみをポイ捨てしないでね!

大網中学校1年生がごみ拾い

分かれ、4人1組で可燃物やビン・カン、ペットボトルを収集。道路脇には、だれがこんなにポイ捨てしたの聞きなくなるくらい所々にカンやビンが...。そんな状態でも嫌な顔せず、すれ違う住民に「こんにちは」と笑顔であいさつをしながら、拾い残しが無いように、ひとつひとつ丁寧に拾いました。

生徒たちは道路だけでなく、水路の土手に投げ込まれたごみも集め、ぬかるみにはまり、靴が泥だらけになる生徒も。駅に向かう人からは「苦勞さま」「精が出ますね」といった声が掛けられる場面も見られました。